

2020.

令和2年9月20日発行

# 伊勢の文化財通信紙 No.5

イセンドは、「いせ」と「送る」の英語「send」を組み合わせた造語です。



## 最新の文化財情報トピックス



伊勢市の指定天然記念物「オヤネザクラ」の増殖を樹木医指導のもと実施しています。その生育状況を裏面で紹介します。



8月24日に新たに「旧市川造船所資料（船舶設計図面）」と「朝熊町の河崎音頭」が市の指定文化財になりました。裏面下で、その内容を詳しく紹介します。

### 宮川堤桜たより

1

今年2月に行った「宮川堤桜樹再生プロジェクト」での土壌改良の成果が早速現れ始めました。下の写真のように桜樹の根元から新たな芽が出始めています。

2

土壌改良を行った桜樹4本において、樹勢の違いが現れてきました。樹勢の変化を記録し、そのデータを元に樹木医に相談しながら今後の処置方法を決めていきます。

3

夏期から秋期にかけては、新芽の伸びが緩やかになります。冬期には、土壌改良による根の伸び具合の調査を樹木医主導で行う予定です。

ビフォー



撮影日:2020.4.21



撮影日:2020.4.21

ビフォー

約半年で、  
1メートル  
ほど伸びま  
した！

土壌改良  
で樹勢が  
パワー  
アップ！

アフター



撮影日:2020.8.11



撮影日:2020.8.11

アフター

### コラム

#### 宮川の桜その1「染井吉野」

染井吉野は、江戸時代後期に江戸染井村から「吉野桜」の名で広まった栽培品種の桜です。明治時代になると全国的に広く栽培され、「染井吉野」に改称されました。花弁は丸く大きく、萼には毛が多くあります。現在、宮川堤の桜700本のうち、8・9割を占めています。

#### “染井吉野”花の写真 ↓



ヤマザクラ  
には毛が  
ないよ！

埋蔵文化財の照会については、開発場所を記した位置図を裏面記載の伊勢市教育委員会文化振興課宛てにお送りください。確認し、折り返しご連絡します。文化財の保護のため、皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



## 伊勢市指定天然記念物のオヤネザクラ増殖プロジェクト！

オヤネザクラは、伊勢市岡本にある国史跡旧豊宮崎文庫の敷地内にあります。豊宮崎文庫創設の時、その主唱者の1人、出口延佳の家の屋根に生えた桜の苗を移植したとも、外宮正殿の屋根に生えた桜とも言われています。

花の特徴としては、染井吉野より早くに咲き始め、花の色が白色から、満開に近くなるにつれ、濃いピンク色に変わっていきます。

伊勢市では旧豊宮崎文庫の整備活用を進め、オヤネザクラの桜の園にしていきたいと考えています。

そのための挿し木によるオヤネザクラの増殖を試みています。令和2年8月下旬時点で、樹高が2mにまで育っています。

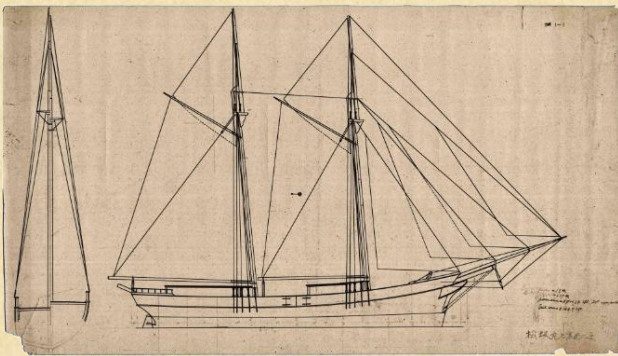


【挿し木によるオヤネザクラ若木】

「ふね遺産」にも  
認定されました！

## 新たに伊勢市指定文化財が2件増えました！

### 旧市川造船所資料(船舶設計図面)



【松坂丸の装帆図(セールプラン)】

旧市川造船所資料は、平成26年(2014)2月に旧市川造船所労働組合から伊勢市が寄贈を受けた造船資料で、船舶設計図面、船具資料、事務文書や書簡などの紙資料などが約6万2千余点あります。これらは和船から西洋型船へと移行した明治時代から昭和時代のもので、日本近代造船史のみならず日本近代史を知るための重要な歴史資料です。このたび指定を受けた「旧市川造船所資料(船舶設計図面)」は、その中でも特に重要と考えられる船舶設計図面911葉です。左の図面は「松坂丸[まつさかまる]」(長さ97.9フィート、幅20.5フィート、深さ11.9フィート、総トン数190.52トン)の装帆図(セールプラン)です。「松坂丸」は明治11年(1878)に竣工した日本初の国産洋式帆走貨物船の一隻として知られています。

### 朝熊町の河崎音頭



「朝熊町の河崎音頭」は江戸時代より戦前戦後を通して、地元朝熊町の盆行事である河崎踊りの音頭として保存されてきた民俗芸能です。1970年代の一時期に途絶えた期間がありましたが、河崎音頭を継承していた鹿海町などの助力を得て復活させ、後継者を育成し、将来的な展望をもって保存継承に取り組んでいます。開催時期は毎年8月14日で、現在は夏祭りの一環として行われています。これまで河崎音頭の伝承者はいくつかの変遷がありましたが、平成28年から現在の朝熊町河崎音頭保存会が担っています。